

平成27年度 就実大学大学院・就実大学・就実短期大学の中期目標・中期計画に基づく各部局年度計画及び実行計画と達成状況

部局名（学部又は事務部）： 学生課

学科名：

平成28年3月31日

中期計画	中期計画期間中の具体的な取組・実行内容	部局および学科における27年度計画と実行計画		計画達成状況	担当者評価	学長評価
		平成27年度計画	平成27年度実行内容			
		(左欄の具体的な取組・実行内容に基づいて計画する。さらに、新たな取組み等について計画実行する)	(平成27年計画の具体的な実行内容を具体的に且つ定量的に記載する)	年度末に計画の達成状況を評価する。		
(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置						
1) 学生支援・学生生活に関する支援の具体的方策						
②心身障がい学生のキャンパス活動の活性化に向けての支援体制や支援方法の整備を行う。	②個人的悩みを抱える学生、心身障がいのある学生、セクハラなどのハラスメントに直面している学生等に対して、適切な指導助言を行える専門的人員を配置し、カウンセリング機能の充実や健康管理などの体制を整備する。	心身障害学生、継続的支援を要する学生への支援体制を明確にし、本学の現況に合わせた全学支援体制を構築する。また、平成28年度からの「障害者基本法改正」に伴い、障害学生支援を本格的に実施できる体制づくりに取り組む。	カウンセラーが常時待機し、急な来談者に対応できるよう、相談室の体制づくりを強化する。学科と管理センター・カウンセラーが連携して、学生の状況・状態を共有し、障害学生の問題解決の支援・サポートを行う。その為にも、外部講師による学内での研修を開催したり、積極的に外部の研修に参加し、知識を習得する。	各学部より教員1名・主な学生支援を行う「保健管理センター」「学生課」「教務課」「キャリア開発センター」より事務員1名による、WG運営委員会を立ち上げ、年明けに、委員会を開催し、カウンセラーの指導・アドバイスを受けながら、学内の連携体制を構築し、全学部が統一の見解をもって、心身障害学生への対応を検討していく。	△	△
				第一回の障がい者学修支援委員会を開催し、各学部・学科において、指導・対応に苦慮した学生の事例報告を行った。今後は対応マニュアルの作成、教職員向けの研修会の開催を計画しており、併せて障がいを持つ学生への全学的支援体制を検討していく予定である。また、「クラス担任ハンドブック」を作成しつつ、学科と保健管理センターとの連携体制づくりを進める。	△	△
③初年次学生は全員部活・サークルに所属し、人間力や社会人基礎力の向上に努めるため、部活やサークル増設や拡大を行う。	③-①学生の間力や社会人基礎力向上に向けて、初年次学生全員が部・サークル活動を実施する。学生受入体制の整備のため、部・サークルの拡充を実施する。	学友会が中心となり、クラブ・サークル紹介ができる機会を増やし、参加を呼びかけて各部でしっかりアピールできるようサポートする。	前回同様、クラブ・サークル加入率50%以上を目標とする。新入生対象オリエンテーションでは新入生が参加しやすい時間帯・場所を設定したり、オープンキャンパスに参加し、クラブ・サークルの特色をアピールする。また、活動が停滞しているクラブに対してアドバイスをしたり、自主的に活動を起こそうと努力しているサークルを支援する。	クラブ・サークル紹介冊子を作成したり、今年度は、学友会がクラブ・サークル紹介時やオープンキャンパスで、紹介動画を作成し見せた。後期が始まり、同好会設立を目指しているグループが2件、クラブ昇格希望が1件、学友会と面接をし、1月に評議委員会にかける予定である。今現在のクラブ・サークル加入率は53.2%で、昨年度加入率42.4パーセントを、10パーセント上回っている。	○	○
				ほとんどの学生がアルバイトをしているにも関わらず、一人が二クラブ掛け持ちで活動しているケースも少なくなく、体育館や祇園グラウンドの使用率も高い。今まで停滞していたクラブが復活したケースもあり、学友はじめ、次年度のクラブ勧誘へ動き出している。	○	○

	<p>③-②学生のアライメントの位置づけの検討を行い、アライメントをインターンシップ的発想での検討を行う。</p>	<p>学内・学外において、アライメントをする場合、将来の進路にあったアライメント先を選択できるよう、環境を整える。</p>	<p>「SA」と区別し、学内において、オープンキャンパス案内、図書館の夜間業務、子ども園の保育補助、小学校のアフタースクール、その他学内行事等のアルバイトや、学外より募集・依頼を受けてのアライメント等、学生の進路を見据えたアライメントの選択肢が増えるようにする。</p>	<p>学内・学外のアライメント情報を、学内メールや学科へ依頼し、学生へ周知させた。学内では学生課の自転車整理・オープンキャンパス・子ども園の夏休み保育等。学外においては、選挙管理委員会の依頼を受け、希望者を募った。が、将来の進路にあったアライメントは少なく、ボランティアの依頼が多い。</p>	○	○
				<p>やはりインターンシップ的なアライメントは少なく、ボランティアとして依頼を受けるケースが多いが、幼稚園・保育所・施設等の実習に役立つボランティアへは、多くの学生が積極的に参加している。</p>	○	○
<p>④成績優秀者の学力などを伸張する方策として、学生ピアサポーター制度の導入やアドバンス科目の設定などの方策を検討し、実施する。</p>	<p>④成績優秀者や経済的困窮者に対する授業料免除制度ばかりでなく、学生が勤務できる学内業務の開放など、学生が勉学と所得を同時に確保できる機会を設けるなどの経済的支援を充実させる。さらに、成績優秀者への経済支援と並行して、学生が学生の勉学などを支援するピアサポート制度（SAなど）の創設運営を行う。</p>	<p>優秀な学生への経済支援をするだけでなく、学生の学力向上の為に学内において、学科や事務部の教育補助員としてSA制度を活用する。昨年度規程を作成した「SA制度」の運営に向けて、SAの内容を吟味・検討し、実施する。</p>	<p>「SA制度」運営のための組織作りを行い、運営委員による運営委員会で審議し運用していく。学部・学科の教科の補助、小学校のアフタースクール、および事務各課において事務補助を募り、運営委員会において精査し、SA教育・指導する課題を検討する。体制が整い次第実施する。</p>	<p>各学部より教員1名・学生課・教務課・キャリア開発センター・総務課より事務員1名による、WG運営委員会を立ち上げ、年明けに委員会を開催し。制度の具体的運営について、SAの養成・SAの内容・予算等を検討する。</p>	△	△
				<p>2回の「SA」推進・運営委員会を開催し、提出されたSA採用希望を検討した結果、平成28年度は4科目については試行的にSAを採用することが決定した。また現在、実施前の「採用調書」や実施後の「実施報告書」、SAの「実績報告書」等の様式を検討中である。</p>	△	△
<p>⑦学友会制度を拡充して、学生全般の生活等の改善に関する代表者会としての運営を行う。</p>	<p>⑦学友会は学生代表として、大学との連携の窓口と位置づけて、就実大学の一員として大学改革に参加する仕組みを作る。例えば、学生FDの設立や就実大学改革学生研究会の発足で大学改革の一助とする。さらに、学生によるピア・サポート制度の充実とサークル活動への全員参加を推進する。</p>	<p>学友会が、学内・学外の行事・イベント等に参加し、各々の活動において、学生代表としてリーダー的役割が発揮できるよう学友会への入会拡大を図るとともに、リーダー育成の機会を積極的に取り入れる。</p>	<p>今年度は、学祭50周年という節目の年であり、学友会の各パートリーダーの役割をしっかりと果たせるよう、リーダーとしての自覚をもたせる為に、昨年度同様、学友会が自ら行事を企画し、また学内、外部より学生代表としての活動依頼があれば、積極的に引き受け、各関係サークルに働きかけ参加を促す。また、リーダー育成のために、他大学との交流会を活発にし、リーダー研修会でリーダーの質の向上に向け講演を行う。</p>	<p>学園祭50周年にちなみ、学友会が中心となって、大いに企画の工夫がなされ、各パートリーダーは各々しっかりと責任を果たしていた。来場者も多数で、模擬店・トークショー・野外等賑わっていた。が、展示の場所が密集されていないため、客足が少なかったようである。また、来場者へのアンケートを行い、反省点についても、各パートリーダーを中心に、しっかり話し合われていた。学内の催しではイオンモール岡山において、学友会や茶道部他参加した。学外からも、日赤より依頼があり、献血の勧誘等、学友会が行った。なお、リーダー研修会・講演は2月に予定している。</p>	○	○
				<p>学友会主催のリーダー研修会には、ほとんどのクラブ・サークルの次年度の部長・副部長・会計の三役が出席し、リーダーシップに関する講演にも参加した。また、来年度秋の生協設立に向けて、学生の代表と共に準備を進めている。ただ、他大学との交流や学生FD、ピア・サポートについては進展していない。</p>	△	△